

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームほほえみ Aユニット		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	2026年1月19日	評価結果市町村受理日	2026年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvosyoCd=0170501480-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の前には月寒川が流れており近くに大きな公園もあり自然が豊かで静かな住宅街にある。同法人のグループホームが隣接しており情報の共有や何かあった時には協力出来る体制になっている。
エントランスは広く中庭の様な雰囲気になっている。共有空間はご入居者が自由に動ける広さが十分にあり座敷の小上がりがあったり居間は開放的な空間でどこにいても落ち着ける様な雰囲気を作っている。
ご入居者一人一人に出来ることや出来そうな事に目を向け日々の生活の中でその方にあった事を取り入れたり、日々活動する時間を設けたりし、アットホーム雰囲気生活が出来るように努めている。重度化が進む中でも体調維持や毎月行うカンファレンスでケアの見直しをしたりその人らしい生活が送れるように支援している。
ご家族には、ご入居者の様子が伝わるように、お電話や面会などで来訪された時にも、日々の生活や体調などの近況報告している。
医療面では協力医療機関を設け定期的には訪問診療や看護師の訪問があり、ご入居者の状態は情報共有出来ておりいつでも相談出来る体制になっている。受診対応は施設で行い緊急搬送時には職員が同行している。
様々な研修があり入職時研修、毎月行う研修、経験年数に応じた研修など学ぶ機会を多く設けている。
町内会に入り町内会行事の参加、近くの保育園の子供たちがホームに来訪しご入居者と関わる機会がある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	2026年2月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームほほえみ」は、近くに月寒河畔緑地や白石東公園などがある自然豊かな住宅地に立地している2ユニットの事業所である。吹き抜けの玄関ホールや共用空間は開放感のある造りで、居間や廊下には利用者がゆっくり寛ぐことができるソファや椅子が数ヶ所に置かれている。壁には利用者や風景の写真が飾られており、家庭的な温もりが感じられる。地域交流として町内会の盆踊りやお祭りに参加したり、事業所のクリスマス会にボランティアのハンドベル奏者が来訪している。児童館や保育園など、子供たちとの交流も継続して行われている。日々の生活においては、毎日入浴できる体制を整えて各利用者が週3～4回の入浴が楽しめるように支援している。排泄面では、適切な対応で自立に向けた支援を行っており、排泄用品が不要になるなど改善した事例もある。今年度新たに着任した管理者は、職員の意見や提案を積極的に取り入れて業務改善に反映させるとともに、計画的に研修を実施して職員の育成と更なるケアの充実に取り組んでいる。また、新たな取り組みとして、利用者の様子を家族に伝える個別のお便りの作成も検討している。管理者と介護士長を中心に、全職員で利用者や家族と真摯に向き合いながら、その方らしく笑顔で過ごせるグループホーム作りを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は誰でもいつでも確認出来るところに掲示している。ケア理念を意識し年間目標を作成しケアで困った時などは理念を見直しながら対応している。	ケア理念の中に、地域密着型サービスの意義を踏まえた「住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと」という文言が含まれている。各ユニットの入り口に掲示している。今年度、管理者の着任時に全職員で改めてケア理念を再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお祭りなどの町内会行事に参加している。お祭りに子供神輿を見学したり小学生や保育園のお子さんが来訪されることもある。	児童館の子供たちが遊びに来たり、近くの保育園児が敬老の日にプレゼントを届けてくれる機会がある。子供神輿が来た際にも子供たちと交流している。事業所のクリスマス会に、ボランティアのハンドベル奏者が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、町内会、地域包括、消防の方、ご家族と意見交換を行っている。その中で、地域の情報や包括、事業所からの講話等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを設定し2ヵ月1回、運営推進会議を開催し、事業所からの日頃の様子、状況を伝え、事業所や包括からの講話、話し合いを行い、ご家族には議事録を渡している。	町内会長や地域包括支援センター職員、家族が参加し感染症や防災をテーマに開催している。全家族にテーマ資料と議事録を送っている。今後は会議案内にテーマを記載して参加できない家族の意見なども聞き取り、会議に活かす意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や区役所担当者と、不明点がある際は相談し情報共有している。生活保護担当者が入居者の状況を電話で伝え、状況報告し関係性を気づくよう取り組んでいる。	市役所とはインターネットでのやり取りが多くなったが、人員配置やおむつサービスに関することを電話で確認している。区役所には、介護保険の更新など各種手続きで訪問することもあり、担当者と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット事務所に身体拘束禁止11項目と例外3原則を掲示し、各職員が確認出来る様にしている。定期的に研修会を開催し、不適切ケアにつながらないように各職員が、日々のケアの振り返りに繋げている。又、職員間で指摘出来る関係性作りを努めている。3ヶ月に一度不適切防止委員会を行っている。	マニュアルを整備し、年2回の勉強会で「禁止の対象となる具体的な行為」の穴埋め問題などを実施している。委員会も定期的に開催し、グレーゾーンについて話し合っている。玄関は防犯上日中も施錠することがあるが、利用者の状況を見ながら閉塞感を与えないように柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット事務所に高齢者虐待の定義を掲示し、各職員が確認出来る様にしている。身体拘束と合わせ研修会を実施し、虐待に繋がらないケアの見直し、話し合いを行い、実践している。職員間の指摘、相談も出来る様に努めている。		

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方は、管理職が対応しており、職員には、説明を行い理解を深められるよう努め職員が後見人と対応する事もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、施設概要、利用料金、重度化の際の対応等説明し、グループホームで出来る事、出来ない事を説明すると共に、疑問点、要望等聞き理解を得ていただき契約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は話しやすい関係性を築けるように努め、運営推進会議で話し合う機会を設けたり面会時に近況報告をご入居の状況を伝えている。	面会時や電話で家族と話をしながら意見や要望を聞き取り、タブレット端末の「申し送り」に記録して情報を共有している。今後は個別のお便りを作成し、利用者の様子を家族に伝えていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関りを大切にして、思いを言える環境を作り、意見や提案がある時は、カンファレンスで職員全員と話し合い、業務改善に繋がられるよう努めている。また、状況に合わせて、管理者と個人で話し合える機会を作ることが出来る。	職員の意見や提案を尊重し、全職員で実施して確認しながら業務改善を行っている。記録類の変更なども職員と相談しながら取り組んでいる。管理者は年2回、職員と個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて記念品を贈ったり、勤続年数、保有資格に応じて条件を優遇し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて、eランニングでの研修や外部研修を行ったり、カンファレンスでケア方法を学べる事ができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に訪問した際には、その事業所の方と情報交換を行い、色々な考え方や意見・経験を学ぶ事が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の際は、ご本人、ご家族と面談をし、施設内の見学や施設概要の説明を行っている。はじめは、不安な事が多い為、安心して過ごせるように信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのお話しは時間をかけてお聞きし事業所で出来ることやケアの提供方法などを伝え不安や希望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族の状況や思いを把握することに努め、必要な支援が提供できるよう、他のサービスも含めた対応を考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者と生活を共に過ごし、会話をしたり、コミュニケーションを取りながら関係を築き特性を知り支援できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会で来所された際には、ご本人と落ち着いて面会できる環境作りに努めている。その際に、生活の様子等伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人が面会に来られたり、掛かりつけの病院を受診したり、家族様と外出や外泊をされる方もおり、その際に、馴染みの美容室などに行かれ、関係が途切れないよう支援している。	近所に住んでいた知人が来訪したり電話がかかって来る利用者がいる。職員が年賀状の返事を書く手伝いや投函を支援することもある。職員と受診した帰りに昔住んでいた所を通ったり、家族と外食や墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性、相性などを把握し気の合う方同士で家事を行うこともある。ご入居者がストレスを感じない様に職員が介入しご入居者同士の距離を図りお互いが気持ちよく生活出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限り経過を把握し、必要に応じて情報提供するなど、継続的なかわりが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし本人の表情や動作で何をしたいのかくみ取るように、意思疎通な困難な方にはご家族の希望やこれまでの生活を把握し意向に沿った生活が出来る様に努めている。	会話や仕草、簡単な問いかけ時の表情などから思いや意向を把握している。フェイスシートとセンター方式シートを作成しているが、趣味や嗜好などの情報が不十分な方も見受けられる。	趣味や嗜好など、普段の関わりや家族との会話から情報を収集し、センター方式シート(B-3)に随時記録し、記録を充実させるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係事業所から情報提供を頂き生活歴を確認するなど、これまでの暮らしを把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、気づいたことがあれば、報告、相談し話し合いする様に努め情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをを行いカンファレンスで状況を把握しその方にあった介護計画書を作成している。ご本人やご家族の意向も確認し意見を反映している。	毎月のカンファレンスで職員の意見や提案を聞き取り、計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録はタブレット端末で行っているが、介護計画を意識した記録はしていない。	タブレット端末にサービス内容の番号を記録するなど、介護計画にそって変化や課題を記録し、評価や介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の気付きはその都度、全職員に伝えられるように申し送りや連絡ノートに書くようにし、職員全員が把握できる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	電話や面会、外出、外泊など、本人や家族の要望には対応できるようにしている。外出や外泊に関しては当日でも受け入れをし柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一緒に買い物に出掛けたり、訪問美容を利用している。また、暖かい季節には、散歩やドライブ、花見など外出をするなど行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による2週間に1回の訪問診療を受け、本人、家族が望む所に受診できるように対応し、体調不良などは、かかりつけ医と相談しながら、受診できるようにしている。	全員が協力医療機関の訪問診療を受けている。かかりつけ医の通院も事業所で支援し、健康状態を詳しく伝えて適切な医療支援につなげている。訪問診療と通院は個別にタブレット端末に記録している。	

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度健康管理記録で状況報告し、体調変化がある時には、すぐに電話連絡し、相談指示を受けている。月2回の訪問診療では、本人自ら相談される方もいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院、家族との連絡をおこない、情報の交換、情報の共有を行いながら退院に向けての取り組みを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を入居時契約時に説明し同意を頂いている。重度化されたご入居者へは協力医療機関と連携を図り対応し、ご家族にも情報共有をし時間をかけ話し合い今後の方針を決めている。	利用開始時に、重度化の指針に沿って対応を説明している。看取りを実施していないため、経口摂取ができなくなった時は事業所での対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合い、適切な対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にマニュアルを置き、いつでも確認出来るようになっている。また、定期的に研修を受け、対応出来るよう努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震訓練、水害訓練、年2回の火災訓練を実施している。近隣の方には訓練参加の案内分を配布し実際、火災が起きた際にはご入居者の見守りなどを願っている。	年2回、昼夜の火災と地震、水害を想定した避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。地域住民は参加していない。インターネットで救命講習を受講している。ケア別の対応を話し合っているが、危険箇所の確認は行っていない。	避難訓練に地域住民の参加を依頼するよう期待したい。また、地震時の共用空間と居室の危険箇所を確認するよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の尊厳を大切にし、その方にあったやりとりや言葉かけに気をつけながら個々に対応している。ご家族に承諾を頂き愛称で呼ぶ事もある。	利用者への呼びかけは「さん」づけとし、接遇研修を計画的に行っている。個人記録類は事務所に安全に保管し、申し送りは部屋番号を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中や生活歴などから思いや希望を聞き取り、選択肢のある質問で問いかけを行い、自己決定が出来るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまかにあるいが、一人一人の生活リズム、ペースを大切にしながら、職員目線にならないように気を付けて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、身だしなみ、好み、おしゃれを本人の希望に添えるように支援している。定期的に訪問美容を行い、散髪されている。			

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、自由食の機会を作り、ご入居者が希望する物や季節の食材を使ったメニューなど提供することもある。食事はその方に合った形態で提供している。	運営法人が献立と食材を提供している。節分に手巻き寿司にしたり、夏に焼肉パーティーをすることも。事業所の畑の野菜も食卓に上っている。利用者は食器洗いや食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が進まない方には飲み物を変えたりコップを変え工夫し提供している。水分が記録し各ご入居者の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後に行い、見守り、声掛け、介助などその方にあつたケアを行っている。協力歯科医院があり何か異常がある時は、訪問歯科に診て頂き対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が続けられるよう、排泄表を活用しながら、その方のリズムを汲み取り、トイレ誘導やパット交換を行っている。プライバシーには配慮し他者に聞こえないようにトイレの確認を行っている。	利用者全員の排泄記録をつけパターンを把握している。日中はほとんどの利用者がトイレで排泄できている。誘導時は羞恥心に配慮している。適切な自立支援により、布パンツの使用に戻った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分摂取を促している。また排便の確認を行い訪問診療で相談しながら、座薬や内服薬を使用し便秘にならないよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	決められた曜日ではなく毎日入浴出来るようになっており、週に2~3回はお風呂に入れる様、予定組をしている。拒否が続く方には、時間や声掛け、職員を変えたり入浴出来るように努めている。	毎日、午前午後とも入浴可能で、各利用者が概ね週3~4回の入浴を行っている。なるべく浴槽に入れるように支援している。入浴剤を使用したり、入浴時に職員との会話を楽しんでいる。希望があれば同性介助とし、2人介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備を行い、安心、安眠できるように本人の生活リズム、その日の体調に合わせて支援し夜間の入眠も2時間毎に巡回し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の内服状況の把握や内服の変更など、職員間で情報共有を行って対応している。調剤薬局の方が来訪し内服のセットをして頂け、その際に疑問などがあれば確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居に合わせて、家事や掃除を職員と一緒にしたり、その方の好きなテレビ番組を観たりし、楽しみごとを支援出来るよう努めている。		

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣を散歩したり、玄関前で日光浴を行ったり、入居者と一緒に買い物をしている。又、思うようにできていない時には、家族と協力しながら戸外へ出かける機会を作っている。	日常的に近くの川沿いや公園で散歩、玄関前で外気浴を行っている。車いすを利用する方も散歩できるよう支援している。外出行事では大きな公園に花見に出かけているが、今後は小グループでの外出も取り入れていく意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、事業所や家族が行っており、必要があれば家族と相談し所持や使用する事が出来るが、希望される方がいない為、使用されることがない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく電話を使用出来る環境で、時折、職員が間に入り、家族とお話をされたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々と開放的な雰囲気の中で日中は日当たりがよく、日々、掃除や整理整頓を心掛け、皆が集まるリビングの壁には、季節に合わせた装飾や入居者の写真を飾り、居心地が良いと思って頂けるよう工夫している。	共用空間は広く清潔で、随所に窓があり明るく、ガラス張りの広い玄関ホールもある。壁には風景写真や利用者の写真などが飾られ、家庭的な雰囲気となっている。居間のソファの他、各所に椅子が置かれている。温度、湿度なども調整され居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるように、ゆっくりと過ごしたり、他者と交流したり、環境整備に気をつけ楽しめる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者の馴染みのあるものを使用し使い慣れたもので居心地の良い環境作りをしている。又、ケガなどが起きないように環境整備にも気を付けて対応している。	居室は、利用者がタンスやベッド、戸棚など馴染みの家具を持ち込むことができ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にも利用者の写真や寄せ書きなど自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子でも自由に移動出来、場所が分からない方でも安心して頂けるよう、トイレなどの案内を掲示し自立した生活が送れるよう努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームほほえみ Bユニット		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	2026年1月19日	評価結果市町村受理日	2026年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvsoyCd=0170501480-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2026年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が多く静かな住宅街に施設はあり、スーパーや商業施設も近くにあり買い物に行きやすい立地となっている。居間や食堂は明るく職員が目配りが出来る設計になっており、ご入居者は安全に生活出来るように配慮されている。居室やは共有スペースから気にならない様、プライバシーが配慮されており、一人一人が周りを気にすることなく生活出来るようになっている。
 入居者とは日々関わりを持ち、思いや意向を把握し安心、安全にそして心地よく楽しく生活できるように努めている。
 地域の行事に参加し、お祭りに子供神輿を見学したり小学生や保育園のお子さんが来訪されることもある。事業所で定期的に季節行事や外出行事をしている。自由食を設け季節の食材を取り入れたり、好み献立に変更し自由食として食事を楽しみ機会を作っている。
 災害対策として定期的に火災訓練や地震訓練を行い災害に対する研修も実施している。各種、研修を設け経験年数に応じた内容や毎月の研修など学ぶ機会を多く設けている。二か月に1回、運営推進会議を行い町内会との情報共有や地域包括支援センターと意見交換を行っている。
 医療面では協力医療機関、協力歯科医院と連携しご入居者の健康状態の維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内にケア理念を掲げている。日々のケアの中で問題点を話し合う際にケア理念を再確認し実践に繋げ職員間で共有する機会を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所では町内会に加入し、入居者と一緒に回覧板を回したり、散歩の時は挨拶を交わし、また避難訓練の案内文をお渡しするなど、繋がりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に見えた方や運営推進会議の際に認知症について話し機会を設け説明などしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、利用者の様子や取り組みなどの報告を行い、そこで出た意見などを参考に今後の取り組みを検討し、サービス向上に活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、札幌市に入居状況の情報提供を行っている。不明な点がある際はアドバイスや助言をもらえる関係性である。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外玄関の施錠は、防犯上の理由から行っているが、それ以外は開放している。3か月毎に不適切ケア防止委員会で議論したり、全職員で身体拘束や身体拘束禁止規定、虐待、不適切ケアについての勉強会や話し合う時間を作り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス内で振り返りを行ったり、研修会で理解を深めたり、全職員で虐待になりそうな事が無いか、日々、職員が行っている対応を振り返り、虐待の防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は施設管理者が対応しており、利用されているご入居者もいる。後見人とのやり取りに関しては職員が対応することもあり、情報共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際は、ご入居者、ご家族に不安な点や不明な点など伺いご理解を得て契約出来るように説明している。契約内容の改定時には説明会を開催し説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様と日々の信頼関係を築けるように努め、思いを言える環境を作り、意見や要望がある時は、職員全員がその思いを汲み取り、運営に反映出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はカンファレンスの参加し意見や思いを確認している。すぐに取り組める意見は業務改善に反映している。必要に応じて個人面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、勤務態度、各職員の能力を確認、把握しながら、昇格の機会があったり役割を受け持つなど、やりがいを感じられるようにし働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修を実施し学びと実践のケアが結びつくように働き掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、計画作成担当者は、外部研修に参加したり、会議、研修等で他事業所との交流を図りネットワークを広げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には直接お会いしゆっくり話しをすることで顔見知りの関係を築けるよう努め安心してサービスを利用出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、ご本人と面談行う事や、ご家族からの要望や困っている事を話す時間を設け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人、ご家族、施設などから情報収集し、本人にとって、今何が必要な支援なのかを見極めながら、サービス提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、掃除や食器洗いなどの家事活動を一緒に行い、感謝の気持ちを伝えるなど、共に支え合える関係が築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行いケアの方向性などについても相談し、ご家族の意見を取り入れるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出された際には以前、住まれた場所に寄ったりしている。定期的に知人からお電話が来る事や面会される時もある。年賀状のやり取りをされる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を把握し、環境作りを行い、活動等行う際に交流を図れる様にしている。居室で過ごすことの多い入居者には定期的に様子を確認し、長時間孤立状態を作らない様に居室で一緒に過ごす時間を作り、会話や居室の整理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり相談を受けるなどの体制作りに努めている。退去されたご家族からオムツの寄付を受けたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いや希望などの把握に努めている。意思疎通が困難な方には、生活歴やご家族様に聞くなどしている。フェイスシートも更新しご本人の希望など記載されている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活ができるように、本人や家族から情報を得たり、生活歴を確認し、本人が混乱等なく以前と変わりなく過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスで入居者の情報を共有し、現状を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合いをし、ケアの見直しを行い、ケアについて反映できるように3ヶ月に一度ケアプランを更新している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を把握しながら、気づいた事は、申し送りなどで職員同士、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事やおやつは、利用者の状態に合わせた形態で提供し足り、市のオムツサービスを利用する申請を行うなど取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時に消防の方と情報を交換したり、町内会長さんや地域の方と意見交換している。町内行事にも声を掛けてもらい、良い関係を築いていけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居後も、かかりつけ医を継続を希望される方には、職員対応での受診が可能で、受診時には、状態の報告や相談を行い、かかりつけ医と事業所の関係を築き、適切な医療を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に早めに気付くことが出来るように、職員間で利用者の情報交換をし、変化がある時は、訪問時に相談している。訪問以外にも変化がある時は、協力医療機関に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、利用者の様子を見に行ったり、病院側と情報交換し、早期に退院できるように努めている。病院から退院した後も、本人が悪化しないように、病院側と今後の生活について、相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りの対応について、契約時に事業所で出来ることを説明し、入居後の生活して行く中で変化が見られる様になったら、早い段階から本人・家族・医療機関・事業所で連携を取りながら、支援に取り組むよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にもマニュアルを提示し、急変時にすぐに、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が、避難方法を身に付ける事が出来るよう、日中、夜間想定で定期的に避難訓練を実施し、その後、問題点など話し合いを行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスなどで、職員の対応がその方の人格や誇り、プライバシーを損ねていないか見直し、今後の支援の仕方に繋げるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて質問の仕方など変え、自己決定できるよう努めている。また、意思表示の難しい方からは、表情や仕草から思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、1日の流れはあるが、その方の生活リズムに合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には自ら服を選んで頂いたり、訪問美容室では、その方の意向に合わせてながら支援出来るよう努めている。		

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど出来る事を行って頂いている。自由食行事を行い、入居者の方のリクエストで出前など楽しめるようにしている。おやつは手作りを提供したり、旬な物を出す時もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を活用し摂取量の把握を行い、不足されている時には、好みに合った物を提供する様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科検診でアドバイスを受け、その方に合った口腔ケアを行うよう努めている。また、義歯を使用されている方は、夜間、義歯をお預かりし洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入から、各個人の排泄パターンを把握しながら、状況、状態を把握し、布パンツの方もいる為、一人一人に合わせて対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んで頂いたり日々身体を動かす機会を設けている。内服調整を行いながら、個人に合わせて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援を行っている	入浴表を確認し、週に2~3回は入浴し、入浴が楽しめる、気分転換、リラックス、清潔保持など、個々に合わせた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に合わせて休息時間を作り、夕方からは穏やかに過ごして頂けるような環境を作り、安心して眠られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある場合には、申し送りなどで作用・副作用など情報共有に努めている。薬の説明書はすぐに確認出来るようにファイルに整理されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のある話題や興味を引く話題を提供している。一人一人の出来ること、楽しみ、安心して生活が送れるように活動し支援に繋げている。		

ふれあいの里 グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2～3回、家族様と外出され、観光や外食をされる方や不定期だが、家族様宅に外泊される方もいる。施設内では、本人希望の日用品やおやつを買いに、職員と出かける事もある。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行っている。入居者の心理状態に合わせ、一時的に所持している事があるが使用される事はない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望された際や、ご家族からの入電の際に希望があれば電話で会話できる様に対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が、心地よく安心できる場所を心掛けて、季節を感じられる壁面や飾りつけなど工夫し、陽の光や照明の明るさなど、調整し心地よく過ごせるように対応している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係性を基に食堂の席を決めたり、居間ソファでも思い思いに過ごして頂けるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた物や馴染みの物を置き、入居者本人がゆっくり落ち着いたように過ごせるよう努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋や、トイレ、浴室など表札をつけて、自分で確認ができるようにし、一人一人の出来ること、出来る力を増やして継続できるように自立支援に努める。			